

南スーダン復興へ決意

中区 政府職員被爆体験聴く

広島市で戦後復興の
歩みを学んでいる南スーダン人が22日、中区で被爆

者の小倉桂子さん(78)の体験証言を
聞いた。国連訓練調査

研究所(ユニタール)広
島事務所が初めて同国

向けて企画した研修の
一環。参加者は、混乱

が続き自国の立て直し
へ、決意を新たにした。

市中では20〜26日の日程
で、復興の歩みや平和

構築の手法などを学ん
でいる。この日は湯崎

英彦知事、松井一実市
長とも懇談した。

(田中美千子)

中区のホテルで1時
間余り、爆心地から2

・4キロの東区で被爆し
た小倉さんの話に耳を

傾けた。内閣府長官補
佐のマティン・ロック

さん(47)は「世界はヒ
ロシマの教訓に学ぶべ

きた。被害を克服し、
まちを再建した歩み

は、母国の課題を解決

するのにも大いに参考
になる」と話した。

南スーダンは20年を
超える内戦を経て、2

011年にスーダンが
ら分離独立。今なお不

安定な情勢が続く。研
修は6カ月間のプログ

ラム。昨秋に首都ジュ
バでスタートし、広島

市では20〜26日の日程
で、復興の歩みや平和

構築の手法などを学ん
でいる。この日は湯崎

英彦知事、松井一実市
長とも懇談した。

(田中美千子)

中区のホテルで1時
間余り、爆心地から2

・4キロの東区で被爆し
た小倉さんの話に耳を

傾けた。内閣府長官補
佐のマティン・ロック

さん(47)は「世界はヒ
ロシマの教訓に学ぶべ

きた。被害を克服し、
まちを再建した歩み

は、母国の課題を解決

小倉さん(左端)の証言を聴く参加者



Chugoku Shimbun, 23 January, 2016

UNITAR workshop participants from South Sudan made strong determination for recovery.

They, public officers of South Sudan, listened to the testimony of Atomic Bomb.